

放射線によるイグサ新品種「せとなみ」の育成

定平 正吉・濱田 四郎・赤木 豊樹・下山根義行
中野 善雄*・吉崎 徹磨*・倉田 斉*・後 俊孝

要 約

定平正吉・濱田四郎・赤木豊樹・下山根義行・中野善雄・吉崎徹磨・倉田 斉・後 俊孝(1982)：放射線によるイグサ新品種「せとなみ」の育成。広島農試報告45：105～112。

せとなみは1963年4月から12月までの間、農林省放射線育種場で生育中のあさなぎの株に総線量68KRの γ 線を照射したものを持帰り、栄養系分離法によって選抜育成し、1982年6月「いぐさ農林5号」に登録された新品種である。生育型は分げつ型で、あさなぎに比べて茎長長く、分げつも多く、特に105cm以上の長茎数が多い。収量はあさなぎ、いそなみより多い。着花は極めて少なく、乾茎の色沢はあさなぎよりも良好である。茎の太さはあさなぎ程度で、茎はしなやかである。先枯の程度もあさなぎ、いそなみ程度である。イグサ紋枯病耐病性はあさなぎよりやや弱いようであるが、一般網掛栽培では顕著な差はみられない。畳表の品質はこれまで最良といわれていたあさなぎよりも良好である。適応地域は瀬戸内及び九州北部地帯である。苗床では茎が細く折れやすいため、健苗の育成に努めるとともに、密植・過繁茂にならぬようにする。本田では網掛時期を早くし、収穫までに網上げを2～3回行い、網面上での倒伏を防ぐ。

I 緒 言

イグサの育種は交雑育種法と栄養系分離法によっているが、イグサは遺伝的ヘテロ性が強いいためか、交雑育種法では現在のところ、希望する品種の育成には至っていない。一方、栄養系分離法からは、いぐさ農林1号のさざなみ³⁾、いぐさ農林2号のあさなぎ²⁾、いぐさ農林3号のいそなみ⁵⁾、いぐさ農林4号のきよなみ⁴⁾の4品種が育成されている。しかしながら、栄養系分離法では形質の全く異なる品種が作出される機会極めてまれである。

イグサの茎は畳表製織のため1m以上に伸ばす必要があるが、その形状から、普通栽培では生育後期に自然に倒伏する。特に早期倒伏は収量品質に悪影響を及ぼす。倒伏を防止する網掛栽培は、1962年当時広島県など一部の県で普及されているに過ぎず、普通栽培における耐倒伏性品種の出現が強く望まれていた。

このような背景のもとに、既に育成されている品種の

不良形質を除去又は改良する目的で¹⁾、放射線照射による突然変異育種を採用することになり、1963年から農林省放射線育種場に依頼して、生育中のイグサ株に⁶⁰Coによる γ 線照射が開始された。まず、最初の材料として、1962年5月に育成されたあさなぎが、良質ではあるがやや低収のため、これに多収性と耐倒伏性を附与することを目標に、4段階の γ 線照射とその後の選抜を行った。

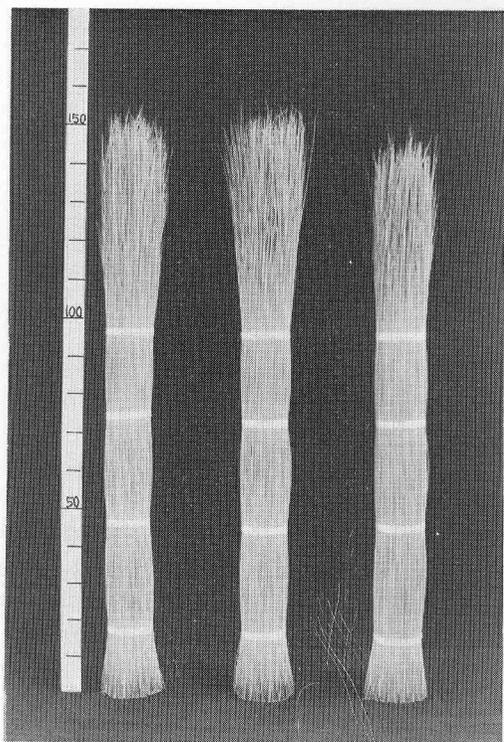
しかしながら、1965年以降網掛栽培は全国的に普及され、これに伴ってイグサ栽培技術は著しく変ぼうを遂げた。したがって、イグサの耐倒伏性も必要ではあるが、それよりも良質多収、機械化栽培適性などを具備する品種が重要視される気運となり、必然的にそれらを対象に選抜を行うことになった。

このようにして育成された「せとなみ」は、 γ 線照射以来19年を要したが、特に畳表の品質はこれまで以上に育成された品種に比べて最良である。近年畳表の品質向上が要望されているときでもあり、本品種の育成経過及び特徴などについて報告し、放射線育種及び普及の参考に供したい。

* 広島県立農業試験場

Ⅱ 来歴及び育成経過

せとなみは1963年4月18日から12月5日まで延187日間、農林省放射線育種場において、1962年5月に登録された良質品種あさなぎより更に良質多収などを目標として、生育中のあさなぎの24株に⁶⁰Coによるγ線を照射（線源からの距離9m、線量率363R/日(20時間)、総線量68KR）、同年12月に広島県立農業試験場東部支場（1969年4月から広島県立農業試験場い草試験地と改称）に持



いそなみ せとなみ あさなぎ
第1図 新品種「せとなみ」と比較品種

帰り、480個体に株分けし、水田に植付けて増殖、1964年12月から栄養系分離法により選抜育成したものである。1965年本田個体選抜試験（4,133個体供試し、100個体選抜）、1966年本田系統選抜試験（100系統供試し、13系統選抜）、1967・1968両年は「広系598」の系統番号で生産力検定予備試験（13系統供試し、5系統選抜）、1969年から1981年まで生産力検定本試験を実施した。1969年12月に「瀬戸9号」の地方番号（系統名）を付し、福岡県立農業試験場筑後分場でイグサ紋枯病特性検定試

験、高知県農事試験場で系統適応性検定試験を実施し、その他岡山、佐賀、大分、熊本、石川などの関係県に配布し、引続き生産力と地方適否を確かめてきた結果、成績優秀なため、1982年6月22日にいぐさ農林5号に登録され、「せとなみ」と命名された。

Ⅲ 特 性

1. 育成地での形態的特性

第1表、第4表に示すように、生育型は分げつ型に属し、あさなぎに比べて茎長は長く、分げつも多く、特に105cm以上の長茎数が多い。また、いそなみと比較しても、茎長は同じ程度であるが茎数は多い。着花は第1表、第2表に示すように極めて少なく、花序の大きさもあさなぎより小さい（第5表）。生茎の色調はあさなぎよりやや淡緑を呈するが、乾茎の色調はあさなぎよりも良好である（第1表、第3表）。茎の太さは中細種に属し、あさなぎ程度でいそなみより細いが、太さの斉一度（粒揃）は概ねあさなぎ、いそなみ程度である。茎の充実は適度でしなやかである（第1表、第2～5表）。

2. 育成地での生態的特性

開花期はあさなぎ、いそなみと同時期である（第5表）。先枯の程度もあさなぎ、いそなみとほぼ同じである（第1表、第3表）。

収量は第2表に示すように、あさなぎ、いそなみより多収である。増肥による増収効果は高く、それによる品質低下の程度もあさなぎより低い（第6表）。

春植栽培においては、第7表に示すように、あさなぎに比べて収量は勝り、長イ花序着生率が低く、茎の絡み度も小さいので、刈取はあさなぎ、いそなみに比べて容易である。

寒冷地では生育・収量がやや劣る（第8表）。

イグサ紋枯病耐病性は、あさなぎよりもやや弱いようであるが、一般網掛栽培では顕著な差はみられない（第9表、第10表）。

3. 育成地での加工的特性

第3表に示すように、茎が細いため単位本数当りの畳表製織長は短い、単位面積当りの畳表製織長はあさなぎ、いそなみより長く、畳表生産枚数が多い。畳表の品質は、これまで最良といわれていたあさなぎよりも、更に良好で美麗である（第3表）。

第1表 育成地における総合特性表

品種名	生育型	茎の伸長	分げつ	生茎色	茎の太さ	太さの齊度	花被色	花序の多少	先枯	色沢	元白	硬軟	豊表の品質	イグサ紋枯病耐病性		
せとなみ	分げつ型	やや良	多	やや淡緑	中細	良	淡褐緑	極少	一小	中	優良	少	やや軟	優	良	中～やや弱
あさなぎ	分げつ型	やや不良	多	緑	中細	良	淡褐緑	少	やや小	中	良	少	中	良	中～やや弱	
いそなみ	分げつ型	やや良	やや多	緑	中細	中	淡褐緑	少	—	中	中	やや良	少	やや硬	やや良	中

第2表 育成地における普通栽培の収量・品質

品種名	収量 (kg/a)		収量指数		長イ重率 (%)	長イ花序着生率 (%)	1m茎重 (g/100本)	茎の太さ (mm)	同変異係数 (%)
	60cm以上	105cm以上	60cm以上	105cm以上					
せとなみ	123.0	82.0	103	109	66.7	0.4	34.4	1.49	11.0
あさなぎ	119.1	75.0	100	100	63.0	1.4	35.7	1.49	10.9
いそなみ	118.8	79.5	100	106	66.9	0.8	36.2	1.51	11.3

注) 1969, 1971～1981年 12カ年平均値 茎の太さは篩別法による

第3表 育成地における普通栽培の品質

品種名	長イ先枯歩合 (%)	豊表製織長			豊表の品質(点)				
		cm/2000本	cm/kg	m/a	品位	元白	枯イの混入	その他	計
せとなみ	13.9	77.8	97.4	79.0	46	9	13	23	91
あさなぎ	13.7	80.1	98.1	73.6	45	9	13	23	90
いそなみ	14.0	81.6	97.0	76.6	44	9	13	23	89

注) 豊表 JAS 1種表 (又は広島県規格, 動力麻糸経引通京間) で1枚の長さ205cm以上, 重量2kg以上 1969, 1971～1981年12カ年平均値

第4表 育成地における普通栽培の生育

品種名	茎長 (cm)				茎数 (本/株)			
	4月1日	5月1日	6月1日	収穫期	4月1日	5月1日	6月1日	収穫期 A B
せとなみ	42	55	89	140	37	62	102	99 54
あさなぎ	41	55	87	136	37	62	101	94 49
いそなみ	43	56	88	141	35	58	95	91 51

注) 1969, 1971～1981年の平均値
A : 60cm以上茎 B : 105cm以上茎

第5表 育成地におけるその他の品質及び特性調査 (1981)

品種名	イ切れ本数*		開花始	花柄長 (mm)	花序長 (mm)	最長茎	
	普通	増肥				葉鞘長 (cm)	節間長 (mm)
せとなみ	3.0	4.3	5月17日	6.4	10.7	14.5	7.6
あさなぎ	5.0	6.5	5月17日	7.0	12.0	13.7	7.3
いそなみ	12.8	13.0	5月17日	7.8	13.8	13.7	7.7

* 製織中のイ切れ本数で, 2000本当りの本数である

Ⅳ 適応地域

瀬戸内及び九州北部の地帯に適する。すなわち, 広島, 岡山, 佐賀各県の普通栽培または春植栽培に適する。

Ⅴ 栽培上の注意

1. 分げつ型で茎が細いため, 苗の掘取りや株分け時に茎が折れやすいので, 苗床では密植, 過繁茂にならないよう健苗の育成に努める。

第6表 育成地における増肥栽培の生育・収量・品質 (1981)

品種名	茎長 (cm)	茎数 (本/株)		収量 (kg/a)		長イ 収量 指数	長イ 重率 (%)	長イ 先枯 歩合 (%)	1m 茎重 (g/100本)	長イ 花着 生率 (%)	イ 序率 (%)	茎の 太さ (mm)	同変 係数 (%)	畳表製織長			畳表の品質(点)		
		60cm 以上	105cm 以上	60cm 以上	105cm 以上									cm/ 2000本	cm/ kg	m/a	品位	その 他	計
せとなみ	151	117	69	142.4	98.9	109	69.5	4.8	32.3	0.2	1.52	10.8		67.9	87.1	86.3	48	46	94
あさなぎ	144	117	63	138.7	91.1	100	65.7	5.5	31.2	1.2	1.46	10.7		66.3	85.9	78.4	48	46	94
いそなみ	150	113	65	134.7	94.1	103	69.9	5.0	31.0	0.3	1.46	10.8		65.1	82.7	77.8	47	46	93

第7表 育成地における春植栽培の生育・収量・品質 (1977)

品種名	茎長 (cm)	茎数 (本/株)		収量 (kg/a)		収量指数		長イ 重率 (%)	長イ 花着 生率 (%)	イ 序率 (%)	長イ 先枯 歩合 (%)	1m 茎重 (g/100本)	茎の 太さ (mm)	最 終 み 度 (kg)	大 み 度 (cm)	最大 絡 み 部 位 (地上) (cm)
		60cm 以上	105cm 以上	60cm 以上	105cm 以上	60cm 以上	105cm 以上									
せとなみ	130	61	32	103.6	63.1	101	107	60.9	0	35.9		37.9	1.50	6.2		73
あさなぎ	129	59	29	102.3	59.0	100	100	57.7	0.6	44.2		39.1	1.49	7.6		72
いそなみ	130	58	30	100.4	62.1	98	105	61.9	0.8	33.4		39.7	1.50	7.5		74

第8表 広島県内現地における普通栽培の生育・収量・品質

場 所	品種名	茎長 (cm)	茎数(本/株)		収量(kg/a)		収量指数		長イ 重率 (%)	長イ 花着 生率 (%)	イ 序率 (%)	長イ 先枯 歩合 (%)	1m 茎重 (g/100本)	茎の 太さ (mm)	同変 係数 (%)
			60cm 以上	105cm 以上	60cm 以上	105cm 以上	60cm 以上	105cm 以上							
庄原市	せとなみ	150	100	58	144.4	101.6	101	96	70.3	0.1	7.9	32.3	1.51	11.4	
	いそなみ	154	93	57	143.2	105.3	100	100	73.5	0.5	7.3	34.3	1.54	12.3	
世羅郡 世羅西町	せとなみ	144	102	58	133.1	90.9	101	100	68.3	0.5	13.2	30.8	1.49	11.3	
	いそなみ	147	97	55	131.5	91.1	100	100	69.3	2.8	12.0	31.4	1.50	11.4	

場 所	品種名	畳表製織長			畳表の品質(点)				
		cm/2000本	cm/kg	m/a	品位	元白	枯 混	イの 入	その他
庄原市	せとなみ	82.5	103.3	104.6	45	9	14	23	91
	いそなみ	86.9	103.0	108.2	46	9	14	23	92
世羅郡 世羅西町	せとなみ	67.5	93.2	84.8	46	9	14	22	91
	いそなみ	69.8	94.1	85.9	44	9	14	22	89

注) 庄原市は1970, 1974年
2カ年平均値。世羅西町
は1974~1976, 1978~
1981年7カ年平均値。庄
原市は標高300m, 年平均
気温13°C, 世羅西町は標
高400m, 年平均気温12
°C。

2. 茎が細いため、風雨により倒伏が早まるので、網掛時期をやや早くし、収穫までに2~3回網上げを行い、網面上での倒伏を防ぐ。

3. イグサ紋枯病に対しては、防除基準に従って防除を適確に行う。

VI 命名の由来

畳表の織目のありさまが、波静かな瀬戸内海のさざなみに似て美しく、落着いた感じを受けるという意。

第9表 育成地におけるイグサ紋枯病耐病性検定

品種名	年次	被害度	発病茎率(%)		
			60~105cm	105cm以上	全体
せとなみ	1980	61.0	63.2	28.0	47.4
	1981	1.2	0.4	0.9	0.6
あさなぎ	1980	56.8	66.4	22.8	46.8
	1981	3.6	1.5	3.5	2.2
いそなみ	1980	48.1	57.9	21.9	40.9
	1981	2.1	0.2	2.6	1.3
きよなみ	1980	37.0	49.9	17.7	34.7
	1981	3.8	1.6	3.0	2.3
さざなみ	1980	31.2	48.3	8.9	30.3
	1981	3.1	1.7	2.8	2.2

注) 1980年は無先刈無網掛, 1981年は5月18日に先刈りし, 6月15日に倒伏防止の網掛けを行った。

VII 育成従事者

中野善雄 (1963~1964), 吉崎徹磨 (1964~1968), 定平正吉 (1963~1981), 赤木豊樹 (1965~1981), 下山根義行 (1965~1981), 後俊孝 (1966~1974), 倉田 斉 (1970~1974), 濱田四郎 (1975~1981)

VIII 摘 要

- イグサ新品種せとなみは, 1963年に農林省放射線育種場において, 生育中のあさなぎ24株に総線量68KRの7線を照射したものを広島県立農業試験場東部支場に持帰り, 栄養系分離法によって選抜育成したもので, 1969年に「瀬戸9号」の地方番号を付し, 1982年6月22日に「いぐさ農林5号」に登録, せとなみと命名されたものである。
- 育成地での生育型は分げつ型に属するが, あさなぎに比べて茎長長く, 分げつも多く, 特に105cm以上の長茎数が多い。いそなみと比較しても茎長は同じ程度であるが, 茎数は多い。着花は極めて少なく, 乾茎の色調はあさなぎよりも良好である。茎の太さはあさなぎ程度でいそなみより細く, 茎はしなやかである。
- 先枯の程度はあさなぎ, いそなみとほぼ同じである。

第10表 イグサ紋枯病特性検定 (福岡農試筑後分場)

品種名	年次	総被害度	発病茎率(%)			病斑長 (mm)
			A	B	全体	
せとなみ	1973	—	0.4	0.4	0.4	41
	1974	49.4	39.3	39.9	39.5	33
	1975	1.2	0.2	0.3	0.5	—
	1976	1.9	0.5	2.0	1.2	36
	平均	17.5	10.1	10.7	10.4	37
あさなぎ	1973	—	0.3	0.0	0.2	83
	1974	32.0	22.9	18.2	20.0	23
	1975	3.2	1.5	1.9	1.8	—
	1976	0.4	0.3	0.1	0.2	29
	平均	11.9	6.2	5.1	5.5	45
きよなみ	1973	—	0.5	0.3	0.3	37
	1974	14.6	2.9	8.8	6.9	23
	1975	1.7	1.2	0.5	0.7	—
	1976	0.7	0.6	0.1	0.3	36
	平均	5.7	1.3	2.4	2.1	32

注) A : 60~105cm茎 B : 105cm以上茎

収量はあさなぎ, いそなみより多収である。

イグサ紋枯病耐病性はあさなぎよりやや弱いようであるが, 一般網掛栽培では顕著な差はみられない。

4. 暈表の品質は, これまで最良といわれていたあさなぎよりも更に良好で美麗である。

5. せとなみの適応地域は瀬戸内及び九州北部の地帯である。

6. 苗床では茎が細く折れやすいため, 健苗の育成に努めるとともに, 密植・過繁茂にならぬようにする。本田では網掛時期を早くし, 収穫までに網上げを2~3回行い, 網面上での倒伏を防ぐ。

謝 辞

せとなみの育成にあたっては, 農林省放射線育種場, 岡山県立農業試験場作物部, 佐賀県農業試験場特殊作物研究室, 福岡県立農業試験場筑後分場イ栽培研究室, 熊本県農業試験場八代支場い業部, 高知県農事試験場栽培技術科, 大分県農業指導所, 石川県小松農業改良普及所

各担当者の方々に御協力をいただいた。また、育成地の技術員の方々の援助も極めて大きい。以上の各位に対し深甚なる謝意を表す。

引用文献

- 1) 松尾孝嶺：1957. 放射線突然変異による育種の研究〔7〕. 農及園32：1281—1286
- 2) 中野善雄・大出春之・定平正吉：1968. いぐさ新品種「あさなぎ」について、広島農試報告27：31—38

3) ———・定平正吉・松沢正知・浜田四郎：1968. いぐさ新品種「さざなみ」について、広島農試報告27：25—30

4) 定平正吉・赤木豊樹・浜田四郎・下山根義行・中野善雄・吉崎徹磨・大出春之・後 俊孝：1978. イグサ新品種「きよなみ」について、広島農試報告40：93—102

5) ———・———・吉崎徹磨・中野善雄・大出春之・後 俊孝・倉田 斉・下山根義行：1972. イグサ新品種「いそなみ」について、広島農試報告31：1—10

Raising of New Mat Rush Variety “SETONAMI” by Radiation Treatment

Masayoshi SADAHIRA, Shiro HAMADA, Toyoki AKAGI, Yoshiyuki SHIMOYAMANE, Yoshio NAKANO, Tetsuma YOSHIZAKI, Hitoshi KURATA and Toshitaka USHIRO

Summary

The new mat rush variety “SETONAMI” was obtained from “ASANAGI” by the following procedure. Twenty-four plants of Asanagi in growth were irradiated with gamma-ray at the dosage of 68 KR [at the distance of 9 m from the cobalt 60 source, the dose rate of 363 R/day (20 hours)] in a gamma-field at the Institute of Radiation Breeding, Ministry of Agriculture and Forestry from April 18 to December 5, 1963. They were brought back in the Tobu Branch of Hiroshima Prefectural Agricultural Experiment Station in December the same year, divided into 480 individuals and planted in a paddy field. They were then selectively cultivated from December, 1964 by clonal separation.

This strain was designated “Seto No. 9” (district cord number) in 1969 and registered as “Mat Rush Grass Norin No. 5” under the name of Setonami on June 22, 1982.

Although the growth pattern is that of a tiller type, Setonami produces longer stems with a larger number of tillers and especially long stems exceeding 105 cm, as compared with Asanagi. Inflorescence number per hill are exceedingly few in Setonami. The dry stem has more beautiful lustre than Asanagi. The stem is approximately as thick as Asanagi but is thinner than Isonami. The stem is also supple.

Setonami almost equals Asanagi and Isonami in dead tipping. It yields a higher crop than Asanagi and Isonami. Setonami seems to have slightly lower resistance to Mat Rush Stem Rot (*Rhizoctonia solani* Kühn) than Asanagi. There is no conspicuous difference when growth by ordinary net culture.

A tatami-facing made of Setonami is even superior in quality to that made of Asanagi which has hitherto been reputed as best in quality.

Setonami is fit for cultivation along the coast of the Inland Sea (Seto) and in the northern regions of Kyūshū. For cultivation of Setonami, the following should be noted; avoidance of dense planting and over-luxuriant growth on a nursery bed for obtaining healthy nursery plant, early netting on a paddy field and elevation of the net for a few times until a harvest time for prevention of stems from lodging on the net surface.

付表1 せとなみの系統適応性検定試験及び地方適否試験における生育収量調査成績

県名	試験場所	年次	品種名	茎長 (cm)	茎数(本/株)		収量(kg/a)		収量指数		長イ重率 (%)
					60cm 以上	105cm 以上	60cm 以上	105cm 以上	60cm 以上	105cm 以上	
高知	農試 (系適)	1971~1975 1977 1978 7年	せとなみ	141	127	78	131.5	93.6	96	91	71.2
			いそなみ	144	123	81	137.3	102.8	100	100	74.9
高知	土佐市 波介	1971 1年	せとなみ	156	158	107	136.2	111.3	104	102	81.7
			いそなみ	157	136	96	131.0	109.3	100	100	83.4
			あさなぎ	154	144	97	139.8	111.8	108	102	80.0
岡山	農試	1973 1976~1981 7年	せとなみ	150	98	61	140.9	106.0	104	109	75.2
			あさなぎ	145	97	57	135.5	97.6	100	100	72.0
			岡山3号	145	95	57	134.6	98.7	99	101	73.4
岡山	農試 (早期刈)	1973~1975 3年	せとなみ	137	91	43	112	78	106	113	69.6
			あさなぎ	133	98	43	106	69	100	100	65.1
			岡山3号	134	96	42	108	70	102	101	64.8
岡山	上房郡 北房町	1976 1977 1981 3年	せとなみ	138	89	43	120.4	81.5	91	92	67.7
			あさなぎ	136	91	43	132.0	88.6	100	100	67.1
岡山	都窪郡 茶屋町	1981 1年	せとなみ	151	120	61	137.5	103.0	96	102	74.9
			あさなぎ	148	114	63	143.7	101.1	100	100	70.4
岡山	倉敷市 中庄町	1977 1年	せとなみ	145	102	57	150.1	113.8	110	117	75.8
			あさなぎ	145	109	61	136.9	97.1	100	100	70.9
			岡山3号	144	115	64	154.4	106.9	113	110	69.2
佐賀	農試	1974~1981 8年	せとなみ	138	116	64	114.2	84.0	100	102	73.6
			あさなぎ	138	113	62	114.2	82.1	100	100	71.9
			いそなみ	142	111	65	115.9	87.5	101	107	75.4
福岡	農試	1971~1981 11年	せとなみ	142	107	63	127.2	87.4	101	105	68.7
			あさなぎ	140	104	58	125.9	83.5	100	100	66.3
福岡	農試 (増肥)	1979~1981 3年	せとなみ	146	110	62	126.6	84.4	101	104	66.7
			あさなぎ	145	109	59	125.2	81.2	100	100	64.9
熊本	農試	1970 1971 1979 3年	せとなみ	150	149	79	125.6	85.7	103	102	68.2
			岡山3号	149	142	75	121.5	84.2	100	100	69.3

付表1の続き

県名	試験場所	年次	品種名	茎長 (cm)	茎数(本/株)		収量(kg/a)		収量指数		長イ重率 (%)
					60cm 以上	105cm 以上	60cm 以上	105cm 以上	60cm 以上	105cm 以上	
大分	蘭指	1975~1980 6年	せとなみ	145	111	53	105.5	67.7	100	96	64.2
			あさなぎ	143	105	51	105.7	70.4	100	100	66.6
			きよなみ	147	104	54	107.9	72.7	102	103	67.4
石川	小松市	1980 1年	せとなみ	166	265	156	172	122	120	118	70.9
			あさなぎ	158	223	136	143	103	100	100	72.0
			いそなみ	160	187	113	127	97	89	94	76.4
			きよなみ	162	192	121	130	100	91	97	76.9

注) 長イは105cm以上の茎(長茎とも言う)。

付表2 せとなみの地方適否試験における品質調査成績

県名	試験場所	品種名	長イ花序 着生率 (%)	長イ先 歩合 (%)	1m茎重 (g/100本)	茎の太さ (mm)	長イの 品質	備考
佐賀	農試	せとなみ	0.3	9.2	31.4	1.38	良	茎の太さの斉一度良好
		あさなぎ	1.1	8.7	32.0	1.43	やや良	
		いそなみ	0.9	8.3	31.5	1.40	中	
福岡	農試	せとなみ	—	4.8	34.9	1.37	やや良	曇表の品質良好
		あさなぎ	—	5.6	36.2	1.36	やや良	赤イ多し
福岡	農試 (増肥)	せとなみ	—	2.7	35.0	1.43	やや良	青味強し、色調良好
		あさなぎ	—	2.3	35.9	1.41	やや良	赤イ多し
熊本	農試	せとなみ	0.1	4.7	32.5	1.24	良	茎はやや軟
		岡山3号	0.4	5.6	32.5	1.25	やや良	

注) 年次は付表1と同じ、茎の太さは直接法による。